

矯正歯科 技術認定 厳しく

患者に見えやすい専門医制度を作るため、医師や歯科医の「技術」を、誰が、どう審査するか。先進的な方式を採用している「日本矯正歯科協会」(深町博臣会長、約1200人)の試みが参考になりそうだ。

(鈴木敦秋)

変えたい医療

「患者さんどう説明しましたか」「(歯の)7番が上手くコントロールされていないのはなぜですか」同協会の顧問で、審査委員長を務める与五沢文夫さん(64)が、申請者に質問する。6000件の治療経験をもとに、技術的な問題から治療法の選択、期間、患者に対する姿勢まで、幅広く問いかける。

先月末、都内で実施された同協会の第2回認定審査。全国から10人が応募、口腔内の写真、治療前後の歯型の模型などの資料の審査後、厳しい面接が行われた。技術水準を反映していない専門医制度に反発が強まっているが、認定の際に実技を考慮している医学会は

治療写真や歯型模型の審査、面接… 5段階で評価

日本矯正歯科協会「認定審査」の主な評価ポイント

<レントゲン、写真から>

▼顔のバランス。閉唇時に口腔周囲筋に緊張がないか

▼前歯の傾斜は審美的、機能的に最適か

▼歯根の平行性に乱れがないか

<模型、レントゲンから>

▼歯並びが左右対称で調和がとれているか

▼ズレや隙間がないか

▼かみ合わせ(前歯部・犬歯、奥歯の関係)は適切か

* 有志設立の「協会」

ングを積んだ者は数百人。質の低い治療を駆逐したい」と与五沢さんは話す。

*

各学会が技術認定に二の足を踏む一因は、「一定レベル以上を『総合評価』することの難しさにある。同協会では、米国の制度を参考に、①厳しい評価基準②審査プロセスの透明性③を徹底させることで信頼性を担保する方式を採用した。

申請時には100件の実績データを出す。このうち審査委員会が任意に5件を選び、詳細な資料の提示を求め、申請者の自己評価や補足説明を受けて計21項目をそれぞれ評価し、審査委員会の総意として5段階の総合評価を下す。

審査員は20年以上の専門

開業歴と1000件以上の治療経験を主な基準に選出された6人。総会での承認を経て、ホームページで自分の治療例を写真入りで公開する。

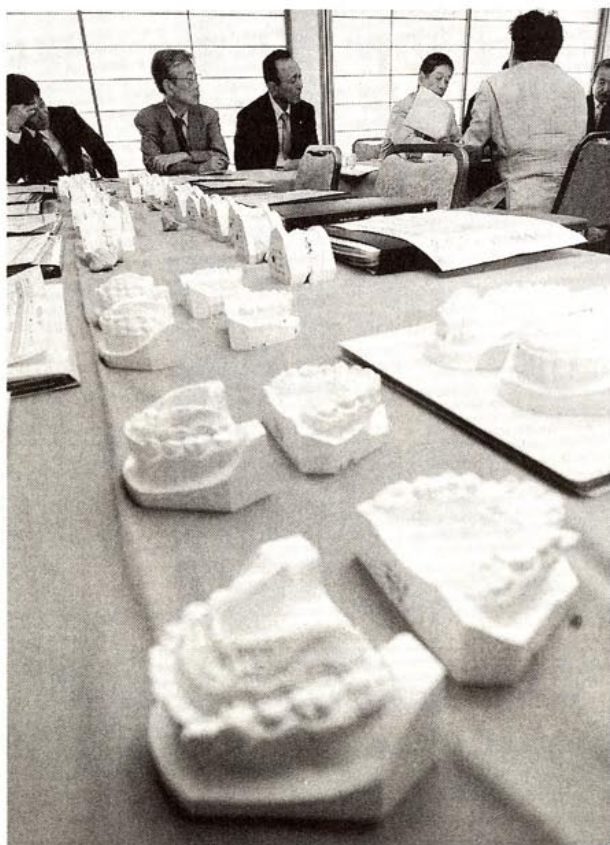
さらに第三者委員として、日本歯科医師会役員や補綴など専門分野の大学教授らのほか、今回は「医療消費者」の代表として、長年都立病院の医療相談室に勤務していたひらの亀戸ひまわり診療所事務長、高山俊雄さん(60)が加わった。

歯科医によって考え方がバラバラなインフォームドコンセント(十分な説明と同意)の方法を中心に質問を行った高山さんは、「今後は、認定医はこの価格帯で治療する」という治療費の目安も示してほしい」と振り返った。

*

今回の審査では10人中9人が認定され、認定者は計31人。審査員の評価に大きなバラツキはなかったが、申請者からは、「審査の基準が不透明。根拠をもっとクリアにすべきだ」という声も出ていた。評価基準は文書で示されているが、整備された標準的な治療方法のガイドライン(診療指針)はない。

同協会では今後、より透明性の高い認定制度を追求していく方針。矯正歯科を専門的にトレーニングするための基準となる教育カリキュラムの作成や、優れた教育施設の認定にも乗り出すとしている。



治療方針や期間などが厳しく質問される日本矯正歯科協会の審査。小西太郎撮影